

子どもたちの笑顔のために「おとな」にできること



児童生徒も参加したパネルディスカッション。いじめ防止に向けたアイデアやおとなへの要望など、率直な意見が交わされた

第2部 パネルディスカッション

協会の阿部東悦会長は「いじめは決して許されませんが、学校においては起き得るものと認識して、子どもたちが安心して暮らせるよう模索している」と述べ、地域巡回やあいさつ運動などの活動を紹介した。

市PTA協議会の志賀猛彦会長は、自分自身のいじめ経験を子どもたちに伝えながら「自分がされて嫌なことは相手と子どもが一緒に考えて解決する」と語り、身近な

おとなの熱心な取り組み 子どもたちには安心感に

パネルディスカッションで、いじめ防止のために「おとなができること」について、仙台市内の学校長や保護者の代表、地域の住民がそれぞれ立場から取り組み事例を報告したほか、3人の児童生徒も参加して「おとなにしたいこと」を訴えた。コーディネーターは鳴門教育大の阿形教授が務めた。

地域ぐるみ生活指導連絡会は「命を大切にしたい」と訴え、仙台二中2年の宮澤正希さんは「おとながいじめに対して熱心な活動してほしい」と訴えた。阿部会長は「おとなの熱心な取り組みは、子どもたちにとって大きな安心感につながる」と述べた。

第3部 トークセッション



大坂ともおさん

中田麻衣子さん

千葉 泰伸さん

スポーツの力生かそう 笑顔の連鎖で心豊かに

トークセッションは、代表理事が進行役を務めた。スポーツの良きについて、大坂ともおさんは「元気で元気な子どもたちが笑顔になること。サッカーの元マインベガルタ仙台レディ監督の千葉泰伸さん（PIA background comm unity）、元でしりーガーの中田麻衣子さん（一般社団法人solution fact ion代表理事）の話から、いじめ防止のヒントを探った。元ベガルタ仙台スタジアムDJの大坂ともおさん（

千葉さんは「一番は楽しいこと。目標を持って共に喜び、共に悔しがることだ」と述べた。

「フェアプレー精神、チームワーク、相手を守る気持ちも育まれる」と大坂さん。千葉さんは「子どもたちだけでなく、おとなも高齢者もスポーツの楽しさを感じてほしい。いじめ解決のヒントもたくさんある」と話し、中田さんは「笑顔の連鎖には絶大な力がある。スポーツを通じて相手を笑顔に、自分の心も豊かにできる機会をもっと創出していきたい」と応えた。

仙台市 いじめ防止シンポジウム

いじめ問題を考えるシンポジウム「子どもたちの笑顔のために「おとな」にできること」（仙台市、仙台市教委主催）が11月16日、仙台市青葉区の仙台国際センターで開催された。郡和子市長は冒頭のあいさつで「子どもたちが安全に学び、健やかに育つには、社会全体で力を結集し、おとなたちがいつでも守ってあげるといふメッセージを伝えることが重要だ」と強調した。第1部は鳴門教育大職大大学院の阿形恒秀教授が基調講演。

「おとながいじめを自分自身の問題と捉えることが大切」と述べた。第2部のパネルディスカッションでは、いじめ防止に社会全体で取り組むために家庭や地域、学校が果たす役割について意見を交わした。第3部のトークセッションは、スポーツを切り口に子ども同士のコミュニケーションづくりの在り方が語られた。ステージでは仙台市立町小合唱団によるミニコンサートもあり、大きな拍手が送られた。

社会全体で問題意識を

第1部 基調講演

鳴門教育大職大大学院教授

阿形 恒秀氏

二つの考え方があると思う。①責任は誰にあるのか②私の責任で何が出来るか。①は、私は悪くない、誰が悪いのかという考えで、多くは学校バッシングとなる。②は悪者探しではなく、教師、保護者、地域住民としてそれぞれ何が出来るかを探る姿勢だ。私が子どもたちに話をしている時、自分が手を出したのではなく、傍観していたわけではない。私には何が出来るかを考えると、



「あかた・つねひで。1956年大阪府生まれ。大阪府立高校を卒業。2011年、鳴門教育大に在職。教育大大学院生徒指導コース教授、いじめ防止支援機構長を務める。」

自分自身のことと捉えて

いじめは大きな社会問題になった。その結果、子どもたちのおとなが自分も他人も大事にする集団をつくっていくか、自分のストレスを人に向けない豊かな人間性を育てて成長させるか。いじめ問題を考えること、いじめられる側も被害者になる側もある。いじめられる側が、相対するのはおとなではないのか。「人はなまじやかく、おとなに助けてもらおう」と。代を生きる時、仲間が持つ意味は大きい。お互いに「安心基地」だ。これが失われることは、おとなのトラウマとは明確に質が違



展示・交流広場 チア教室やゲームで歓声



親子連れでにぎわったエコバッグ作りの体験コーナー。思い思いの絵付けで個性的に仕上げた

会場の仙台国際センターには展示・交流広場も設けられ、いじめ防止に関する各種団体の活動をまとめたパネルが並べられたほか、体験・ゲームコーナーも幅広い世代でにぎわった。在仙プロスポーツ3球団のチアリーダーによるダンスパフォーマンスやチアリーディング教室もあった。

パネルには仙台市PTA協議会、宮城県警察、すこやか子どもを育てプロジェクト仙台など、9団体が展示。写真やポスターを多用することで、いじめ防止活動を分かりやすくアピールした。

体験・ゲームコーナーでは、家族連れが自由に絵を描いて仕上げるエコバッグ作りも人気。仙台市PTA協議会、宮城県警察、すこやか子どもを育てプロジェクト仙台など、9団体が展示。写真やポスターを多用することで、いじめ防止活動を分かりやすくアピールした。

作りをはじめ、けん玉やおはじといった昔遊び、ミニフリースローコーナーを楽しんだ。

各コーナーを運営したのは、宮城教育大生による仙台市いじめ防止ボランティアのスタッフ。代表を務める4年の庄子柁太さんは「いじめは昨今の学校で大きな関心事。暗く考えがちだが、こうした楽しいイベントを通して明るい未来をつなげたい」と話した。

ベガルタ仙台、東北楽天ゴールデンイーグルス、仙台89ERSによるチアリーディング教室には、4、10歳の児童13人が参加。チアリーダーがプロのダンスパフォーマンスを披露する。会場には、仙台市図書館が選んだ「いじめ・命に向き合う本」約100冊を集めたブースもあった。